

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験
生命科学部「UNITE Program®方式」
(数学物理型、数学英語型、数学情報型)

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
(数学物理型) 応用化学科	3	3	3
(数学英語型) 生物工学科	8	7	3
(数学情報型) 生命情報学科	3	3	1
計	14	13	7

(2) 本入学試験の目的

本入学試験では、次のような者を積極的に評価し、受け入れることを目的とします。

- ・生命科学部の各分野に強い関心を持ち、当該分野の諸課題を追究・解決しようという意欲を持っている。
- ・生命科学部の各分野の学びの基盤となる知識・思考力を備え、さらに高めようとする意欲を持っている。
- ・入学後、生命科学部での学びの上に、各分野における興味・関心を大学入学後にさらに発展させようという意欲を持っている。
- ・卒業後、生命科学部に関連する分野において、国際的に通用する研究者・技術者になりたいという意欲を備えている。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

書類選考（「エントリーシート」、「志望理由書」、調査書等）

- ・エントリーシート：高等学校等での学習面での取り組み状況や成果（800字以内）、卒業後の進路（就職や大学院進学など）についての希望（1,200字以内）
- ・志望理由書：志望する学科において入学後に学びたい分野やテーマ（800字程度）

(2) 第2次選考

①小論文（80分）

生命科学に関わり、当日提示された課題についての小論文

課題として、日本の3地点における年平均気温の経年変化の図を読み取り、

- ・図から読み取れること（400字以内）
- ・図から予想できる将来の気温の傾向（200字以内）
- ・以上で述べたことと関連して、志望学科における学びの内容や関連分野における研究が、社会にどのような貢献ができるか、自身の考え（600字以内）

を論述する問題を出題しました。

②個人面接（10分）

小論文の内容および出願書類（「エントリーシート」、「志望理由書」等）の内容を基にした質疑応答

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

調査書等により大学での学修の前提となる基礎学力を評価すること、「エントリーシート」ならびに「志望理由書」により大学入学後の学習意欲・関心等を評価することを目的としました。

(2) 第2次選考

①小論文

生命科学の分野への関心、基盤となる知識、論理的な思考能力等を評価することを目的としました。特に、「データを読み解く力」「自らの考えを論理的に展開する力」「大学での学びの内容の理解」「論理的な文章を作成する力」を評価することを意図しました。

②個人面接

生命科学の分野における諸課題への関心、生命科学部での学びに対する意欲等を評価することを目的としました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

本方式では出願資格としてUNITE Program®による事前学習を課していますが、それ以外の分野についても大学での学修の前提となる知識・思考力を身に付けているか、もしくは入学前に身に付けようとしているかを、調査書とエントリーシートにより評価しました。また、生命科学部の学問分野への興味・関心や課題に取り組む意欲を、エントリーシートと志望理由書により評価しました。生命科学部や志望する学科で扱う分野について知り、入学後に取り組みたいことを明確に記述できているかを重視しました。

(2) 第2次選考

①小論文

1問目ではグラフから読み取れることを余すことなく見出せているか、2問目ではグラフを外挿して予測できるか、という観点から、データを読み解く力を評価しました。3問目では、各学科での学びの内容を理解できているか、関連する研究分野と1・2問目で解答した問題点との関係性を示しているか、貢献できる内容を具体的に記述できているか、という観点から評価しました。加えて、文字数の制限が守られているか、誤字脱字がないかといった、小論文としての記述の質も評価の対象としました。

②個人面接

出願書類や小論文の内容を基に質疑応答を行い、基礎学力、論理的思考能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力などを評価しました。特に、志望理由や入学後に学びたい内容、興味のある分野などについての質問から、分野への関心や課題解決への意欲を評価しました。また、学業と学生生活への抱負、卒業後の進路や将来の目標についての質問から、入学後の学習や将来の進路に対する意欲を評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

出願書類から、多くの受験生が、学部・学科で扱う学問分野や学習内容について知り、入学後の学びへの意欲を持っていることが読み取れました。その一方、基礎学力の面で、入学後の学習についていけるか不安を感じるものも、他の入試方式と比べて多くみられました。生命科学は幅広い学問分野で、それを理解する基盤として、高校の「物理」「化学」「生物」をはじめ、幅広い知識と論理的思考力を身に付けていることが望まれます。調査書の成績だけで不合格とはしませんでしたでしたが、エントリーシートで問われている「高等学校等での学習面での取り組み状況や成果」の内容や、それ以外の部分も含めた記述の論理的一貫性にも、志願者による差がみられました。

(2) 第2次選考

①小論文

UNITE Program導入初年度となった前年度と比べ、前年度の講評から問題を想定してよく準備されていたようで、文章は比較的良好に書けており、全般に評点は高めになりました。それでも、グラフから読み取れる情報をもとに、問題文で問われている内容について論理的に記述を展開できるかには、比較的大きな差がみられました。おおむね的確に解答しているものもあった一方で、問題文で問われていることから外れた内容の記述に終始しているものもありました。もちろん、文章を論理的かつ正確に理解できることも大学での学びに必須ですので、日頃から意識することが望まれます。

②個人面接

全般に明確な受け答えをする志願者がいた一方で、学科に対する理解が不十分だったり志望動機が不明確だったりするために入学後の学習や将来への見通しを示せない、論理的な受け答えができず質疑応答がかみあわない、といったケースもあり、志願者による差がみられました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

今年度も、自身の考えを筋道立てて説明できるかという点で、出願書類・小論文・面接を通じて（これらで一貫して）志願者間でかなり大きな差があったように思われます。論理的思考力は、大学に入ってから学習・研究においても重要です。一朝一夕に身に付けるのは難しいため、日頃から考える練習をしておく、いつか役に立ちます。また、事前学習のUNITE Programで課している科目のほかにも、高校で学ぶ内容には、大学での学びの基盤となるものが多くあります。入試に関係ない科目だからと考えないほうが、よい結果につながりそうです。苦手科目があっても、それをどう克服するかを考えているかどうかで、やはりいつか差がつきます。

特に生命科学は総合的な学問で、研究対象やテーマに応じて、幅広く多様な科学の知識を活用します。広い視野から物事をとらえることも大切です。また、急速に進歩し続けている分野でもありますので、大学やその先でも学び続ける意欲があると、長く活躍し続けられるでしょう。

生命科学部では、そのような意欲あるみなさまからの志願をお待ちしています。

以上